

氏 名	久 郷 亜 希
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 3310 号
学位授与の日付	平成19年3月23日
学位授与の要件	医歯学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Quality of life for patients with schizophrenia in a Japanese psychiatric hospital (日本の精神科病院における統合失調症入院患者のQOL)
論文審査委員	教授 栗屋 剛 教授 荻野 景規 助教授 神谷 達司

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

近年、良質な QOL を提供することは精神科における治療の中心的な目的となっている。今回の研究では、統合失調症の入院患者の主観的な QOL を評価し、QOL と種々の患者特徴との関係について調べた。また主観的 QOL 評価を看護師にも行い、患者群と看護師群の結果を比較した。主観的 QOL 評価には WHO/QOL-BREF を用いた。対象患者の性別、年齢、罹病期間、生活環境、婚姻状況、精神症状と主観的 QOL の相関を調べると、唯一抑うつのみが軽度ではあるが明らかな相関関係を示した。患者群と看護師群の主観的 QOL の比較では、身体的領域と社会的交流の面で、患者群の QOL 評価が低かった。これは統合失調症の病気そのものと、それに附随する能力障害がもたらした結果かもしれない。今回の研究では、抑うつ以外どのような因子が患者の主観的 QOL に影響を及ぼしているか明らかにはできなかったが、抑うつにこれまで以上の注意を向けることが患者の主観的 QOL の向上につながる可能性が示唆された。

#### 論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、精神科病院における統合失調症入院患者の種々の特徴（抑うつ、不安、心理的苦痛、陽性症状、陰性症状など）が患者の主観的QOLにどのような影響を及ぼしているかを統計学を駆使して分析したものであり、「抑うつ」のみが軽度ではあるが身体的領域及び心理的領域のQOLに有意な相関を示したとの結論を得ている。精神科領域においてこのような患者の特徴と主観的QOLの関連に着目して分析したものはほとんどなく、価値ある業績と認められる。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認められる。